

## パブリックコメントへの回答について

### (意見1)

以前、嬉野に住んでおり、嬉野図書館をよく利用させていただいていました。長男を出産し、1歳半健診でのブックスタートの取り組みが、とてもすてきな取り組みだと思いました。その時にいただいた本は、今でも大事にしています。ぜひ続けていってほしい取り組みです。

#### 【回答】

ブックスタート事業につきましては、受け取られる方の声も聞かせていただきながら、これからも続けていきたいと考えております。

### (意見2)

私が勤務している小学校の中にも地域の図書館が開放されています。学校の図書室よりも本の数が多く、子どもたちには大人気です。図書の時間を楽しみにしている子が多くいます。

#### 【回答】

地域開放型図書館につきましては今後さらに皆様が利用しやすい施設となりますように努めていきたいと考えております。

### (意見3)

#### 【P2 ブックスタートの充実】

子どもの読書活動を広めていくために、とてもいい活動だと思います。

#### 【P14 図書館における読書活動の推進】

おはなし会や行事の充実

気軽に参加できるし、嬉野図書館は本の配置にも工夫されていて、子どもが読書に触れるいいきっかけになっていると思います。おはなし会などは、さらにいろんな子どもが参加できるように、広く宣伝してもらえたらいいと思います。

#### 【回答】

ブックスタート事業につきましては、受け取られる方の声も聞かせていただきながら、これからも続けていきたいと考えております。またおはなし会などにつきまして、いろいろな広報の方法を探しながら、広く周知していきたいと考えております。

(意見4)

**【P3】**

「地域」実績及び成果のところ

「職員におけるお話会を開館日は毎日開催しました」とありますが、どこがそういう活動をしているのか知りたいと思いました。

「図書館ボランティアへの支援」

よくしていただいていると思います。ボランティア室の鍵の開け閉めや、研修の時の会議室の使用など理解して協力して下さっていると思います。

**【P10】**

松阪の小中学生の読書調査が全国を下回っているのが気になりました。松阪は、ほとんどの子どもたちが、自分だけでは図書館に来ることができません。大人が車に乗せてきてくれないと来られないのです。休日に大人も子どもも図書館（公園、はにわ館も含めて）に遊びに行きたいなと思えるような場所にしていくことが大切かと思います。子どもが本を選んでいる間、大人も楽しめるような本がたくさんあるとよいと思います。本だけでなく、大人が遊びに来たいなと思えるようなものがあったらいいと思います。

**【回答】**

「実績及び成果」に関しまして、ご意見をいただきましたようにおはなし会を開催している場所を記入させていただきました。ボランティアへの支援につきましては、今後もボランティアの方々が利用しやすい図書館であるように努めていきたいと思っています。また、今年度より飯高中学校、宮前小学校、香肌小学校、天白小学校にて地域開放型図書館を始めさせていただきましたので、近隣の方にはそちらの図書館もご利用していただきますようお願いをしていきたいと思っています。また松阪図書館、嬉野図書館におきましては大人が子どもを連れて行きたくなるような、魅力的な図書館作りイベントの開催をしていきたいと思っています。

(意見5)

**【P2 ブックスタート事業について】**

本来ブックスタートは0才児対象ではなかったか？その為かどうか内容が物足りない気がする。又、3冊というのも予算ありきで選定する感があるので冊数を減らすかして選択の幅をもたせたい（是非アンケートを取ってもらいたい）ボランティア要員の確保を積極的にしていただきたい。

**【P9 図書館スタッフ研修の充実】**

読書ボランティアと一緒にさせていただく中で、スタッフの皆さんの努力を感じます。参考にさせていただきます。

**【P10 松阪市における子どもを取り巻く環境の変化】**

松阪図書館の読み聞かせ室が新しくなり、明るく開放的な空間に多くの親子を見かけるようになり、とても嬉しく思っています。特に父親の姿を多く見るようになりました。

**【回答】**

ブックスタート事業に関しましては0才児健診時にお渡ししている自治体もございすが、松阪市の場合1歳6か月児健診時に併せてブックスタート事業をさせていただいております。本の内容は2セット用意させていただいて、子どもの意思でどちらのセットがいいか選ぶことができ、また親が子どもの好みに合わせて選ぶことができるのも1歳6か月児健診時にお渡しするよい点だと考えております。本の内容につきましては、毎年ブックスタートの会議を持ち、図書館職員・健康づくり課職員・ボランティアスタッフで本を選定しております。普段から子どもや図書に触れている職員が1歳6か月の子どもに向けた本として選ばせていただいております。今後本の冊数などにつきましてはぜひともブックスタートの会議の中で検討をさせていただきたいと思っております。

新しくなりました松阪図書館につきましては、今後も利用者が使いやすく、居心地のよい図書館になりますように努めてまいります。

(意見6)

**【P3～全体】**

「読書ボランティア」という表記は適切か。学校支援課がまとめるボランティアについては「読書支援ボランティア」である。統一する方がよりボランティア活動をしている人にわかりやすいのでは。

**【P6 実績・課題】**

第三章でも触れられている通り小学校と中学校では別の施策実績成果課題がある。まとめをひとくりにされることで実績も成果も伝わりにくい。具体的な施策に沿って、小学校、中学校を別に整理するとよいのでは。

**【P14 地域における読書活動の推進(公民館での読書講座)】**

講座利用者からの視点では専門の司書もない蔵書もない公民館での出張講座よりも公立図書館や学校図書館での講座のほうが魅力があり、継続しやすい。より深く広く世代間交流、地域間交流も期待できる図書館開催を検討しては。

**【P16 14行目】**

「学校ボランティア」の表記は「学校支援ボランティア」で統一してはどうか。(前述同様)

**【P16 13行目 学校図書館標準の達成】**

残念ながら市内学校図書館での蔵書は根本の整備がすすんでいない現状があります。この現状では「蔵書数」にこだわる整備計画は、本計画のめざす魅力的な図書館づくりとは乖離します。国の第四次計画にも「計画的な整備を図られるよう」(文部科学省第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」P24L27)とあるよう、まずは「情報が古くなった図書などの更新」(同P12L19)など基本的な整備を始め蔵書数よりも質を高める整備計画ののち、図書館標準を達成する計画を進めていただきたいと思います。

**【P16 18行目】**

学校図書館での活動の推進に「学校図書館長」(学校長)は参画しないのでしょうか。学校長が学校図書館に方針をお持ちの学校は司書、司書教諭、読書支援ボランティアとの連携がスムーズかつ活発です。魅力的な図書館づくりにおいてのキーマン、学校長の位置づけも必要ではありませんか。

**【P23～ 成果の実績】**

学校図書館の施策実績課題成果を図るためのデータが少ない。貸し出し冊数どころか蔵書数すら把握できない現状では学校図書館標準は指針になりえないのでは。市内全学校図書館の電子化推進が望まれるが、施策に取り入れる計画はないか。

### 【P 2 3～ 成果の実績】

読書推進に欠かせない人的支援の実績及び目標を策定してはどうか。学校司書の学校図書館派遣回数、推進活動の研修会など、推進する活動がどのように拡充されたかを計画、報告していただきたい。

### 【その他として】

松阪市内の学校図書館について「読書室」という通称があるが、地域住民にとっては通用しにくく混乱を招く通称となっていることを報告申し上げる。本計画では一貫して「学校図書館」という正式な名称を使用されていた。学校現場でも「学校図書館」と明記し呼称を統一していただけないだろうか。

### 【回答】

#### 【P 3～全体】

「読書ボランティア」につきまして本計画におきましては、地域や図書館や学校など、すべての場において読書に関するボランティアをしてる方ということで「読書ボランティア」で統一をさせていただきたいと思えます。

#### 【P 6 実績・課題】

第二次計画の内容に沿って実績及び成果と評価及び課題について記載をさせていただいております。ご意見をいただきましたように、分けて記載をする方が分かりやすいと思えますので、この第三次計画におきましては、活動の場ごととして小学校と中学校を分けて計画をさせていただきました。

#### 【P 1 4 地域における読書活動の推進(公民館での読書講座)】

図書館でも講座の開催をしていく上で、地域に根差し参加のしやすい公民館でも講座の開催をしていきたいと考えております。

#### 【P 1 6 1 4 行目】

ご意見をいただきましたように、「学校支援ボランティア」という表記をさせていただきます。ありがとうございます。

#### 【P 1 6 1 3 行目 学校図書館標準の達成】

ボランティアが学校図書館に入って最初にさせていただく作業が古くなった本の廃棄だと聞かせていただいております。ご意見をいただきましたように、図書館標準を達成することはとても重要なことだと考えております。読書ボランティアの協力をいただくとともに、今後調査研究していきたいと思えます。

#### 【P 1 6 1 8 行目】

ご意見をいただきましたように、学校長が学校図書館へ参画することにより各担当の連携が取りやすく、学校図書館がよりよいものになると考えております。

### 【P 2 3～ 成果の実績】

学校の蔵書数把握は国が4年に1度調査を行っております。平成28年度に行われ次は令和2年度に行われる予定となっておりますので、今回は資料編に生涯学習課より派遣している司書からの報告の蔵書冊数を記載させていただきました。また、電子化におきましては、現在中学校と一部の小学校だけが電子化されているという状況ですので、予算の範囲内で効率のよい図書館運営を調査研究していきたいと考えております。学校司書の派遣回数につきましては、担当課としても予算の範囲内なるべく多く学校司書を派遣できる

ようにと考えております。派遣している司書に対し、委託業者が月に1度研修をしていただいておりますが、今後は研修で学んでいただいたことを各学校に持ち帰っていただき先生方や学校支援ボランティアの方にも広げていけるようにと考えております。

**【その他として】**

学校図書館という名称についてですが、各学校において親しみのある名前や思い出などがあると聞いております。教育委員会から「学校図書館」という名称で統一を指示することは困難ですので、ご了解をお願いしたいと思います。

**(意見7)**

**【16ページ17行目 2. 小学生の時期 (2) 活動の場ごとの取組・施策の推進小学校における読書活動の推進 及び 19ページ16行目 3. 中学生の時期 (2) 活動の場ごとの取組・施策の推進中学校における読書活動の推進】**

「専門的な人材(学校司書)」「専門的な知識・技能を持った職員」配置の効果を認め、それを謳うのなら、何よりもまず「専門的な人材=専門的な知識・技能を持った職員=学校司書」を、毎日、子どもたちや先生が学校にいる間中は全日、全ての学校に置いていただきたいと思えます。

なぜ、学校司書(=学校図書館のプロ)という職種があるのに、それが配置されていない学校・日・時間があるのでしょうか? 学校司書が全ての学校に毎日、一日中いてくれば、多くの問題が解決すると思えます。

また、学校司書(=学校図書館のプロ)の配置は松阪市の責任で、松阪市が直接、雇用してください。郷土の子どもたちの読書活動を市が保障できないのは、市が全ての責任を負えないのはおかしいと思えます。

お隣の多気町が羨ましいです。多気町にできて、松阪市にできないのは何故でしょうか? できないことはないと思えます。

**【回答】**

松阪市では現在学校読書室支援事業として委託業者より学校司書の派遣をさせていただいております。今後は予算内においてなるべく多く学校司書を派遣できるように調査研究をしてまいりたいと思えます。

※パブリックコメントをいただきました時点とページ数が異なっておりましたので、出来上がりました計画のページ数に合わせていただきました。